



## 巻頭言 『宇宙教育について』

理窓教育会会長 富岡 康夫(48 理・化)

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、2024年1月20日に月面へ小型月着陸実証機「SLIM」が成功したと発表した。世界で5番目の国である。月の着陸地点は「神酒の海」のクレーター「SHIOLI」の地点にピンポイントでの着陸であり、画期的であるといわれている。50年前の学生時代にロケットの燃料タンクはどのような構造に設計するかと恩師から問われたことがあった。専門の界面科学の分野である。地球上では重力が存在するので燃料の液体はタンクに収まり下部からの燃料パイプで送られるが、無重力に近い宇宙では燃料液体は表面張力で球形になろうとし、下部が存在しないので難しい構造になる。最近タンクをジャバラのポリエステルでたたむようにすると聞いたことがある。このように宇宙を考えることは現実の地球上の様々なことが通用しなくなる。粒子同士の凝集力より重力が際立つことになり、逆に宇宙で結晶をより精密につくることができ、新たな医薬品の製法と注目されていることはご存じだと思う。

平成30年10月28日(日)の第10回坊っちゃん科学賞の最優秀賞に輝いた加古川東高校の「微小重力化での宇宙ピペット」も校舎4階から自由落下で微小重力を作り、メニスカスの変化をビデオに録画し考えたものである。同年11月3日には宇宙をテーマにした生徒、学生らの優れた研究を表彰する衛星設計コンテストで、長崎県立長崎西高物理部生徒の「人工衛星に載せる太陽光パネルの展開方法」が、高校生部門で日本一の「ジュニア大賞」に輝いた。このコンテストは全国の大学院生や大学生、高校生らを対象に、宇宙

に関わる研究を活性化させようと、日本宇宙フォーラムや宇宙航空研究開発機構（JAXA）などが毎年開いている。3部門で実施し、このうち、高校生部門には全国から23件が応募。「ジュニア大賞」受賞の研究は、小型化が進む人工衛星に、大きく開く太陽光パネルを載せることが目的。1年の藤井歩希さん（15）が4カ月間、折り紙でパネルの折り方の試行錯誤を重ね、11番目に思いついた方法で、当初の大きさの30分の1サイズに折り畳めるようになった。自分の名前から「フジイ折り」と名付けた。

さて、本学の宇宙教育プログラムを紹介する。本学では文科省の宇宙航空科学技術推進委託費による宇宙教育プログラムを2015年度より大学生高校生を対象に実施している。2023年度は3期目の最後の年。向井千秋特任副学長はじめ様々な分野の先生方の興味あるプログラムで主体的な学びを実施している。2月17日H3ロケット打ち上げが成功し、益々これからは宇宙についての理解が重要となる。もはや人類の将来に関わる宇宙を教育でもしっかりと扱っていく時代である。

理窓教育会の皆様には、現在の教育の方向の一助として参考にして頂き、相互の研鑽を積んでほしい。特に若手教員の交流や大学の東京理科大学同窓教員ネットワーク「TUS Linkage」も始動し、4月21日の創域理工学部春のオープンキャンパス、5月26日の葛飾オープンキャンパス開催について（事前予約制）の案内も伺っている。会員相互の交流を益々盛んにし、大学の支援を含めて理窓教育会のさらなる発展を願うばかりである。  
(文華女子高等学校名誉校長)

# 支 部 報 告

## 北海道支部報告

支部長（平 2 理・数） 能登 啓児

北海道特有の広域的な地理要因（札幌まで自家用車で数時間・公共交通機関だけでは移動できない等）に加え、コロナ禍で社会活動に制限のあったこの 4 年間の始期に前支部長が退職されたことも重なり、支部総会の実施はもちろん、会員の動向把握も出来ていない状況が継続しています。加速度的に進む教育改革に対応する学びや情報交換が出来るよう、会員のつながりを取り戻し、今年度は是非とも総会を実施したいと考えています。

北海道でも少子化が急激に進み、高校を例にとると、自分が教員として働いてきた 35 年間で学校数は約 70 校減。私が入学した高校も初任校として働いた高校も統廃合により消滅しました。小中学校も地域の中心部への統合が進んでいます。この状況に抗うことは出来ませんが、それぞれの学校が地域活性の拠点としての役割を果たせるよう、理窓教育会のメンバーとも手を携え、魅力ある元気な学校づくりを進めたいと思います。

余談となりますが、年に 1～2 回、大学時代の同級生や部活動の仲間と集うために、はるばる北海道から東京に出向いています。この数年は、集まるメンバーが当時を懐かしみ、神楽坂や飯田橋界隈を会場とすることが増えています。すっかりお洒落になった街並みのなかに当時からの懐かしい店を発見するたびに昔話に花が咲いています。というような話を同年代の支部会員に話しをすると、最近同じような経験をしたとのこと。皆、考えることは同じようです。

## 青森支部報告

支部長（40 理工・電） 村本 卓

理窓教育会青森支部総会は、理窓会青森支部総会と合同で開催しています。今年度は 4 年ぶりに支部総会を開催しました。懇親会では、第 25 回坊っちゃん賞受賞の渡辺聡明さんに花束が贈られ、渡辺さんから苦労話が紹介されました。受賞の対象となった「おもし

ろサイエンス」は毎年実施している支部独自のイベントで、今年度は 8 月 16 日に第 20 回目を開催し、活動の様子を理窓会青森支部の HP で紹介しています。

## 岩手支部活動報告

支部長（54 理・数） 佐藤 尚

岩手支部では例年 11 月に支部総会を開催しているのですが、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症が蔓延し、残念ながら支部総会並びに懇親会を開催することができませんでした。

例年の支部総会では、和算の話や小規模校・僻地校・通信制などの教育現場の実践報告を行い情報交換したり、懇談会では楽器演奏などがあり、和やかに交流を行ったりしましたが、令和 4 年度は事務的な総会とノンアルコールの食事会のみとなりました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が第 5 類に移行したことから、お陰様で情報交換会や懇親会も復活させて、以前と同じ規模で開催することができました。

情報交換会では、「福岡高校での ICT 活用紹介」と題して、福岡高校の藤枝和弘先生（H12 工・建築卒）が事例発表を行い、時間が足りなくなる程活発に質疑が交わされました。

総会では、令和 4 年度の会計決算が報告され、また本来であれば令和 6 年 3 月で 3 年間の任期が切れる現役員について、コロナ禍でほとんど活動ができなかったことから特例で任期を 1 年延長することが承認されました。

本部挨拶・報告等では、石川正俊学長からのビデオメッセージに続き、大学理事の佐々木健夫先生と理窓会副会長の上村直樹様からご講話をいただきました。

懇親会では、ギターやフルートの演奏も復活し、近況報告などで大いに盛り上がりました。参加者は 14 名と少なめでしたが、久しぶりに「こうよう会」岩手県支部長の菅原恵子様にもご出席いただき、父母会との交流をすることもできました。

今後、参加者を増やすことが課題となりますが、ひとまず以前と同様の総会を開催することができてホッとしております。

結びに、皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、ご支援・ご協力をこれからもよろしくお願い申し上げます。

## 秋田支部総会報告

支部長(58 理工・数) 長岐 康彦

コロナ禍も収まったことから、今年度秋田支部では、ようやく4年ぶりの総会を開催することができました。なお、教育会秋田支部としての活動は特にはしていないので、総会の報告で換えさせていただきます。

総会では大学から樋上賀一常務理事、増渕忠行理窓会会長が参加されて大学の現状や理窓会の活動についてご報告いただき、県出納局財産活用課課長の高橋知道(H1 理工・機)氏より「水ビジネスから見る秋田の現状」と題した講演がありました。この講演は本来4年前の総会で実施する予定でしたが、コロナ禍を受けて3回も延期され、ようやく実施されたものです。折しも7月に秋田市中心部が全国ニュースでも大きく取り上げられる程の水害に襲われ、長期の大量の雨による河川の氾濫及び排水機能が追いつかない内水氾濫によるものと判断されました。その後市の主要な浄水場のポンプ不具合で断水の危機が報じられるなど、上下水道インフラの重要性が実感されるタイミングでの実施となりました。

今年度総会で特筆することとして、若手の参加者が増えたことがあげられます。小松正孝支部会長が30歳代の卒業生50名を対象に支部会員登録依頼を発送し、これに応えた新規登録者が6名おり、その内の2名が今回の総会に参加してくれました。この2名は総会後の2次会にも参加してくれ、大学への思いや、数学への愛着などを熱心に語ってくれていました。また、国を始め大学でもリケジョ増加に向けた取り組みを進めている中、そのパイオニア的な方達もこの会に多数参加され

ました。中でも十年ほど前に大学卒業間もない頃初めて参加し、その後結婚、出産を経て久々に参加されたという方は「今後もこの会に関わっていきたい」と話してくれ、当支部の未来へも希望が感じられる会となりました。

## 群馬支部総会報告

支部長(61 理・応数) 関根 正弘

理窓教育会群馬支部総会は令和5年11月25日(土)に行われた理窓会群馬支部総会と同時に開催されました。

最初に、理窓会群馬支部長富田忍様より挨拶がありました。富田支部長は長く群馬県の高等学校教育に携わり、教育会群馬支部長も歴任されました。

次に、東京理科大学理事長の浜本隆之様と学長の石川正俊様からのビデオメッセージに続いて、理窓会副会長の松原秀成様よりご挨拶とお話しをいただき、理窓会の現状や運営の在り方、今後の改革について理解を深めることができました。東京理科大学の益々の発展と理窓会の重要性と必要性が実感できる示唆に富んだ内容でした。

こ休憩の後、高崎健康福祉大学人間発達学部子ども教育学科教授片山豪先生(東京理科大学出身)より『実験教材の開発と研究—セントラルドグマ・DNAの確認等—』と題するご講演に耳を傾け、タンパク質を作り出す興味深い実験に取り組み、楽しい充実した時間を過ごすことができました。

懇親会は、秋の叙勲で瑞宝小綬章を受賞された、群馬大学名誉教授浜名康栄先生の祝賀会を兼ねて開催されました。先生は東京理科大学理学部化学科を卒業され、輝かしい業績を残されました。更に、参加者一人ひとりから近況報告をいただき和やかな会となりました。最後に、群馬支部の理窓会及び理窓教育会の更なる発展に向けて取り組むことを確認いたしました。

## 埼玉支部総会報告

平 1 理専 (物理) 金井 信也

埼玉支部においては埼玉支部総会の他、年に2回の幹事会と1回の講演会・懇親会を事業として実施しています。令和5年度は5月21日(日)第1回目の幹事会を、シーノ大宮で開催しました。第1回幹事会では、総会に向けての準備として、新役員案や年度会計案などを確認しました。総会は7月2日(日)JACK大宮にて、理窓会埼玉支部総会と日程を合わせた形で実施し、令和5年度の事業、役員、予算等について審議が行われ、無事承認されました。理窓会埼玉支部総会と日程を合わせることで、会の効率を高め、また、教育会の存在を、特に若手の教員にアピールできる機会となっています。その後、10月8日(日)第2回目の幹事会を、シーノ大宮で実施、講演会・懇親会の準備に向けた活動を行いました。12月2日(土)に講演会・懇親会を、武蔵浦和コミュニティセンターを会場に実施しました。14名の参加があり、講演講師として、埼玉県内の公立学校で初の中高等教育学校である大宮国際中等教育学校のIBコーディネーターを務める、Brad Semans氏をお招きしました。「国際バカロレアと大宮国際中等教育学校での取り組み」と題し、開校までの経緯や同校の教育活動、IB教育の実際について、生徒の進路の見通しについて、また、裏話など、大変興味深いお話をいただくことができました。

本会では、若手教員会員の拡大が課題となっております。今後も、各方面の皆様にお力をお借りしながら頑張っていく所存ですので、ご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

## 東京支部総会報告

支部長 (48理・化) 富岡 康夫

令和5年度の理窓教育会東京支部総会は、コロナ感染が第5類に変わったので全て通常の対面による総会に戻すことができました。日程は、5月28日(日)午前中ですが、東京支部総会は、全国理窓教育会(本部)理事会後に開催することができました。この形が教育会東京支部と全国理窓教育会との連携され

た総会になっています。東京支部は、役員のほぼ全員がZoom会議に参加できる体制が整っています。今後もZoom会議も取り入れながら、活動を行う予定です。また、当日の午後に理窓会(本部)東京支部と教育会東京支部が共催となる懇親会を開催しました。

教育会東京支部の大きな活動の1つは、「東京都管理職候補者面接研修会」の開催になります。以下の通りです。

【実施期日】令和5年9月17日(日)午後

【面接官】高等学校：現・元校長……15名

中学校：現・元校長……7名

【面接参加者】校長候補 高等学校 19名  
中学校 10名

副校長候補 中・高等学校…7名

また、この面接研修会の運営は、理科大教育会東京支部の企画運営で行われますが、面接官・面接者は出身大学を問わず参加できるシステムをとっています。今後も東京都の教育推進に寄与するために、東京支部として活動を継続して参りたいと思います。そして、現職の会員の皆さんとつながり活性化を図っていききたいと思います。

また、支部として大学と連携を深めるために「若手教員ネットワークの会」の支援に全力で取り組みを進めているところです。今年度は、令和5年10月29日(日)開催の理科大ホームカミングデーにおいて、第3回目となる懇談会を開催いたしました。この会に教育会東京支部の会員の方々も参加され、理科大との連携を一步ずつですが進めることができました。今後は具体的に若手の先生方が大学との関わりを進めていくこととなります。若手の会は主に首都圏で組織されていますが、北海道・新潟・愛知・岐阜にも繋がりを持っています。勿論、私学の先生方ともネットワークを持っています。

## 千葉支部教職員部会からの報告

教職員部会長 (63理・応数) 風戸 正

今年度、県立成田北高等学校藤崎俊浩校長より部会長を引き継いでおります。本県の



杉浦雅美支部長の御指導の下、教職員部会並びに支部会員相互の交流と各種取組の充実に努めていきたいと思ひます。

さて、令和5年度は5月の事務局会議を皮切りにすべての行事がコロナ禍前のように対面で実施することができました。6月の役員会。7月は恒例の研修会で、これまでの管理職選考に向けての実践的な研修から、昨年に引き続き今年も若手、ベテラン、顧問の3名を講師に、現場の取組みを紹介したり、先輩の経験を伝えたりする研修としました。大先輩である小倉正敏元支部長からは人間関係の構築についてとても参考となるお話をいただきました。

そして8月27日(日)総会並びに記念講演会・懇親会を盛大に開催しました。来賓として、兵庫明東京理科大学常務理事をはじめ多数の御来賓をお迎えし、総勢56名の参加となりました。兵庫常務理事から入試動向や学部・学科改編、石川正俊学長からはビデオメッセージによる挨拶・説明があり最新の理科大を知ることができました。記念講演会では元東京都立日比谷高校統括校長である武内彰先生を講師に「日比谷高校での学校経営」について、教職員のやる気を高め、学校活性化となる組織の構築について参考となるお話をいただきました。今回は若い初参加者が11名あり強い抱負が熱く語られました。最後は、校歌斉唱をもって令和5年度総会・懇親会を締めくくりました。12月に長命泉(酒蔵)・成田山参拝、令和6年1月に新年会を有志参加で行い親睦を深めました。

本支部の課題として、現役会員の参加促進や事務局の後継者育成があげられます。声かけをすると共に、WEBページの充実を図り情報発信する必要があります。今後とも理窓会千葉支部への御支援・御協力をよろしくお願ひいたします。

## 神奈川支部活動報告

支部長(51理・数) 田中 均

令和5年10月22日(日)、ホテル ザ・ノ

ット横浜において、3年ぶりに理窓神奈川教育会総会並びに懇親会を開催しました。県内の私学、中学校、高校の教育関係者など、27名が参加し、懇親を深めることができました。



## 山梨支部総会報告

支部長(53理・物) 橋田 多喜夫

山梨支部総会は、毎年理窓会山梨支部総会と合同で開催しています。本年度は4年ぶりの開催となり、令和5年10月21日(土)15時から甲府市「ニュー芙蓉」で5名の参加で開催しました。

来賓として、東京理科大学常務理事樋上賀一先生、理窓会副会長上村直樹先生をお招きしました。

樋上先生からは、東京理科大学について、学科再編・同窓教員ネットワーク・新たな入試制度「総合型選抜(女子)」など現状と将来展望をお聞きして、大きく変化し発展を続ける母校の様子を頼もしく感じました。また、上村先生からは理窓会の最近の活動報告があり、各支部の様子・財務体質の改善・情報ネットワークの拡大と活用・創立150周年に向けての基本構想構築・若い同窓生の参加についての方策等をお聞きしました。

議事では、令和元年度～4年度の事業報告・会計報告が行われました。この中で、年に何回か支部役員による打ち合わせ会を実施して、支部総会へ多数の会員が参加できるような取り組みを検討しているとの報告がありました。総会後懇親会に移り、ご来賓の方々と様々な話題に充実した楽しいひとときを過

ごしました。

## 静岡支部報告 キャンパス訪問

支部長(55 修薬) 樋口 和男

支部の後藤登さんと私の野田・神楽坂キャンパス訪問を紹介します。

### 野田キャンパス

前年のことですが野田キャンパスに行ってきました。野田キャンパスができて、ちょうど 50 年の節目だったので、神楽坂で行われている毎年のホームカミングデーを昨年は野田で行ったとのことでした。自分は理工学部の二期生なので招待状が届いたこともあり、実に久しぶりに野田を訪れました。田園地帯の中にあつた野田校舎は住宅の中にあり大きな変貌を遂げていました。ただ学生の時によく散歩やランニングをした校舎の横の利根川と江戸川を結ぶ運河は昔のまんまでした。同窓生達が大勢、来ていましたが、1人(集合写真の自分の左の人物)以外は全くわかりませんでした。(後藤)

### 神楽坂キャンパス

昨年の暮れに久しぶりのクラス会があり、神楽坂に集まりました。数年ぶりに会う友人もいましたが、多くは卒業以来の再会でした。友人たちもそれぞれ人生を重ねて体型も外観も大幅に変わって、はじめは誰が誰であるかがわかりません。しかし自己紹介の中の大学当時の話題には「そんなことあったよな」、「良く覚えているな」と感心し、そしてあいつかと思いついて当時の話に花を咲かせました。またクラス会後に神楽坂を久しぶりに歩くと、昔のままの店も残ってはいますが、通りは高級感を増し、人気スポットなのか大変な人通りです。学生当時のように薄汚い白衣で歩ける雰囲気は皆無で、二次会で寄った店の一杯のコーヒーが千円を超えてびっくり！今の学生は生活しにくいだろうと心配をするばかりです。(樋口)

後藤さんも私も大きく変わるキャンパス周辺と同窓生に驚きましたが、その懐かしさは代え難いものです。皆様にもキャンパス訪問をお勧めします。

## 信州支部報告

支部長(63 理工・建) 清水史明

理窓会の長野県支部の名称は「理窓会信州支部」と定めているため、理窓教育会も信州支部とさせていただきます。信州支部では理窓会信州支部総会と兼ねて総会を実施しています。例年、信州支部総会は秋に会場を長野市と松本市の交互で開催しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために中止、令和3年度はオンラインによる開催でしたが、昨年度から対面での総会を再開しています。令和5年度は松本市を会場に、オンラインを含め 30 名の参加で開催されました。理窓教育会として信州支部総会には高校の校長、教頭は参加するようにしています。

理窓会信州支部は飯田洋市公立諏訪東京理科大学教授に会長を務めていただいています。公立諏訪東京理科大学は前身の諏訪東京理科大学の時代から地域の高校との連携を進めていただき、県内の公立高校の探究学習や専門高校との高大連携による共同研究などを進めていただいています。理窓会信州支部と理窓教育会との関係は深く、理窓会信州支部を通して高大連携の意見交換などもさせていただいています。飯田会長は理窓会信州支部総会の発展のために大変尽力されており、定期的にメールで本部や支部の情報を送っていただいたり、役員会の開催や総会での講演会を企画していただいたりして活発な支部活動を支えていただいています。

## 富山県支部総会報告

支部長(60 理・化) 近藤 智久

記録的な猛暑が続く 8 月 5 日、富山地鉄ホテルを会場に、理窓会・教育会富山県支部総会が合同開催されました。

滝本恒平理窓会富山県支部長の開会の挨拶に始まり、樋上賀一東京理科大学常務理事のご挨拶、石川正俊学長のビデオメッセージの紹介へと続きました。さらに、上村直樹東京理科大学理窓会副会長からは、今年度は各県

支部総会も次々と再開されているとのお話がありました。

総会では、令和4年度の会務報告、会計報告があり、令和5年度の活動計画並びに役員案が承認されました。教育会からは大学に対して、富山県の教員採用の状況を踏まえ、理工系学生の応募増を期待し、県教育委員会とも連携して、東京理科大学生や大学院生にぜひ富山県の教員を目指していただけるよう、資料配付やPRの機会を設けさせていただきたい旨、お願いさせていただきました。また、総会に続いて、池北雅彦山陽小野田市立山口東京理科大学理事長から「山口東京理科大学の目指す姿」と題してご講演をいただきました。

富山県支部総会は、令和2年度こそ開催を取りやめたものの、令和3年度からはリモートも取り入れるなどして、何とか総会と講演会を開催してきました。今年度は4年ぶりに懇親会も行うことができました。これからも、会員相互の交流と親睦を深め、活動の輪を広げていきたいと願っています。

## 福井県支部総会報告

支部長 (59 理・物) 油谷 泉

理窓教育会福井支部では、まだ単独の活動を行う段階にないことから、まず会員の加入を進めることから取り組んでいます。卒業生の情報収集が難しいこともあって残念ながら会員増にはつながっていない状況です。本県の理窓会支部においても会員の固定化・高齢化の状況にありますので、今後も連携しながら進めていきたいと考えております。

## 岡山支部総会報告

支部長 (46 理工・数) 三浦 康男

岡山県では、教育会総会は支部総会とは別の時期に開いていますが、令和5年度には支部総会は開催しましたが、理窓教育会は諸般の事情により開催できませんでした。

支部総会（岡山坊ちゃん会と呼んでいます）と理窓教育会とは別々に開催していますが、

その理由は、20年以上も前に支部総会に参加した際、参加者は教員出身者が多く、教員出身でない会員から「この総会は、教育界出身の会員の会のようで、今後は出席しない。」と言われた苦い経験があるからです。

その後、現在では支部総会には教育界だけでなく、他分野からの出身者が増えています。加えて、現職教員の多様な方法による働き方改革のため、総会とは別に教育会の会を開催するのが難しくなっており、理窓教育会の役員会を開き、他県のように支部総会と教育会総会を兼ねるなど、今後どうするかについて検討する時期になっています。

岡山支部の課題の一つに、役員の高齢化があります。理窓教育会総会や支部総会に、思うように若い会員の参加がないことも課題の一つです。若い会員から現在の教育界の様子を聞き、理窓会岡山支部として、どのような事が協力できるかを知りたいと思います。また、他県で若返りのために、このような方法をとっているなど、お教えいただきたいと思っています。

岡山支部では、毎月ご多忙の中発行していただいている「理窓会会長短信」を3～4か月に一度、役員に配布し本部や全国の動向を知ってもらうとともに、県内で活躍している役員の情報も同時に配布し、役員相互の情報交換をしております。

また、岡山は地方ですので、大学を卒業し地元就職となれば、やはり地方公務員や教職員としての就職が多くなります。そこで以前から、「こうよう会岡山県支部」との連携を重視し、教育委員会や公的機関の人事担当者の経験がある会員に、保護者の要望にお応えできるよう、協力を求めています。

今後も、理窓教育会岡山支部の在り方・方向性を常に考え、会員の持っている知識や社会的な立場が生かせるよう、平素から会員同士の意思疎通を図るとともに、学校現場の情報を会員に提供して参りたいと思います。

## 広島県支部報告

支部長 (58 理・応数) 板倉 宏治

広島県支部総会は、10月1日に理窓会支部総会と合わせて、昨年に引き続き開催することができました。理窓会支部総会には、理窓会会長増渕忠行様、常務委員野村香織様に加え、こうよう会広島支部より、田川さゆり支部長にもご出席いただきました。

理窓会支部総会では、浜本隆之理事長、石川正俊学長からお届けいただいたビデオメッセージによって、大学の現状について詳しく伝えていただきました。

教育会支部総会は、理窓会支部総会・懇親会に先立って行い、昨年度からの経過報告、会計報告に加え、昨年度末に整理した名簿をもとに新たな支部役員を確認し、教育会広島県支部の活性化に向けての意見交換を行いました。現在、支部教育会の会員は高齢化が進み、会員数が減少する中、今後の新たな取り組みとして、何か理科・数学を楽しむ会や催しを理窓会会員の方々の協力も得ながら行うことが出来ないかと模索しているところです。

理窓教育会報を見る限り、広島県での理科大出身教員は、近年非常に少なくなっています。このような状況下、11月12日には、こうよう会広島支部において就職説明会が行われ、保護者約30名が参加されました。説明会に引き続いて行われたグループ懇談会では、教員を志望する学生の保護者を対象に理窓会広島支部前眞一郎支部長より、広島県の教員採用の現状や採用後の教育会支部としての支援のあり方等について、説明されました。こうした連携を通じて、理科大出身の新規採用教員の増加を図るとともに、支部会員交流の活性化、活動状況の情報発信を通じて、若手・中堅教員の相談役、よりどころとしての役割を果たせるように努力していきたいと考えています。今後とも、他県の活動を参考にさせていただき、支部の活性化に努めていきたいと考えております。関係者の皆様におかれましては広島県支部のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 鳥取支部報告

理窓会鳥取支部長 (51 理・数) 齋尾 宏伸

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、理窓会鳥取支部総会の開催も数年できないままです。理科大出身教員の現役・退職者は若干わかりますが、理窓教育会鳥取支部は組織していませんので活動の報告はありません。

## 徳島支部報告

支部長 (61 理・応数) 濱本 寛信

令和2年2月頃から国内にまん延し始めた、新型コロナウイルス感染症。令和2年度から令和4年度までの3年間は、感染法上の位置付けが「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」であり、私たちも制限のある日常生活を強いられてきました。今年度（令和5年度）に入り、5月8日から、感染法上の位置付けが「5類感染症」になり、少しずつではありますが私たちの日常生活も感染症まん延以前に戻りつつあります。

このようななか、今年度は支部発足後、まだ1度も開催できていない支部総会開催に向け、第1歩を踏み出すことができました。私は現在、校友会理窓会徳島支部の代議員も務めさせていただいています。同支部長も元高校教員であり、現事務局のメンバーも私を含めて、全員が高校教員です。すなわち、校友会理窓会徳島支部事務局のメンバー全員が同時に、理窓教育会徳島支部のメンバーになります。支部長、代議員、事務局の代替わりや新型コロナウイルス感染症のまん延で、長らく開催できていなかった、校友会理窓会徳島支部総会も今年度、11年ぶりに開催できました。総会では、教員、公務員、民間企業（いずれも退職者を含む）、自営業と様々な業種の卒業生たちが一同に集いましたが、徳島は四国の小さな県であり、大学卒業後、地元徳島で就職する卒業生もそう多くはいません。そういった理由で、理窓教育会徳島支部総会も校友会理窓会徳島支部総会と合同で開催すればいいという、コンセンサスを今総会で得ることができました。

来る令和6年度は、校友会理窓会徳島支部

総会と合同にはなりますが、理窓教育会徳島支部総会の開催と理窓教育会徳島支部活性化に向け、頑張っていきたいと思えます。

## 佐賀支部活動報告

支部長(44 理・化) 森永 和雄

コロナ禍で中止していた佐賀支部総会を令和5年2月24日に4年振りに開催した。長いブランクから参加者の減少を懸念したが、理窓会本部が掌握している県内会員全員に案内状を送付したところ、初めての参加者が増え、再出発に相応しい総会となった。

本部から理窓会会長増淵忠行氏を迎え、理窓会活動の取組について、常務理事樋上賀一氏からは、理科大の現状と今後の取組について紹介を受けた。近年、理科大はQS世界大学ランキングで高い評価を受けているとのこと、同窓としても誇りを感じた。

記念講演は、佐賀北高校理科教諭 鈴木卓氏の『オーロラに惹かれて』を拝聴した。幼少の頃、米国で父親が見てごらんと教えてくれたオーロラが初めての出会いであった。それが地球物理学を専攻することに繋がり、生涯を通してオーロラと付き合いこととなった経緯には感動を覚えた。オーロラの発生原理とアラスカで撮影した美しいオーロラの写真を見て楽しいひと時が過ごせた。懇親会では、参加者全員の近況報告や情報交換を通して親交を深めた。なお、支部長が次年度から宮崎幸久氏に交代することが総会で承認され、これから佐賀支部の新たなスタートが始まる。



## 宮崎支部報告

(62 理・応化) 児玉 康裕

本県の教員採用に関することを報告します。宮崎県の本年度の教員採用試験の受験者数は、1,012名となっており、これまで最も多かった平成23年度と比較すると、約700名の減少となっています。そのような状況下、本県では受験者確保に向け、地元大学と連携した「宮崎県教員希望枠」の拡大や県内外の大学で直接ガイダンスを行うなどの取組を充実させています。また、本年度は新たに中学生や高校生を対象に「ひなた教師ドリームカフェ」を2回開催しています。この「ひなた教師ドリームカフェ」は、県内及び全国で活躍する教育関係者による「教師の魅力」に関する講話や特別授業を行うものであり、受講者からは、教職への関心がさらに高まったとの声が聞かれました。県教育委員会は、今後、専門性を有する社会人や教職に就いていない免許保有者の確保をさらに進め、教員のなり手不足の解消に取り組むとしています。

(宮崎県総合博物館勤務)

## 坊っちゃん賞を受賞して (41 理・数) 坂本 功

第115回理窓会新年茶話会において「坊っちゃん賞」を受賞しました。頂いた盾に刻まれている銘文は「あなたは建学の精神にもとづき科学の発展および普及に寄与され東京理科大学の名声を高められました。ここに敬意を表し第26回坊っちゃん賞を贈ります」

私には身に余る言葉です。

また私の受賞の対象になった業績を「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」において、長年にわたり統括責任者を務め、同組織の活性化・継続化に寄与。同コンテストを東京理科大学と理窓会の共同事業に結び付け、高校・大学連携に貢献。東京理科大学のイメージを向上させた」とあります。

「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」には三つの特徴があります。



一つ目は審査委員がほとんど理科大の出身者です。分野別審査では 50 人ほどの理科大出身の中学・高校の先生が一日がかりで、物理・化学・生物・地学・数学・情報の審査をし、その上位の研究論文を理科大出身の理科大の先生が総合審査して優秀賞の 5 校を決めます。

二つ目は優秀賞の 5 校を大学に招いて研究論文のプレゼンテーションをさせ、秋山仁先生を審査委員長にした理科大の先生の審査委員が、最優秀賞の学校を決めます。

三つめは応募した研究論文を「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト作品集」としてまとめ、応募した学校及び生徒に送ります。

第 8 回のコンテストに応募した研究論文を読んでいると、その研究論文の指導教諭が第 3 回のコンテストで「虹」の研究で最優秀賞を取った生徒であることに気が付きました。その生徒は理科大の物理科に入学し、卒業後神奈川の県立高校の先生になったと聞いていました。理科の先生になって、生徒を指導して、このコンテストに応募してきたのです。

「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」を長く続けていけば、こんなこともあるのだと嬉しくなりました。

**令和 5 年度 《第 14 回》  
坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト  
～優秀賞校 5 校の対面による発表会で実施～**

**実行委員長：松原 秀成（45 理・物）**



第 14 回『坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト』は、コロナ感染が第 5 類になりました

ので優秀賞校 5 校のみ理科大にお出でいただき令和 5 年 11 月 12 日（日）にライブ開催で実施致しました。今回も昨年同様に、石川正俊学長先生は、開会から最後の表彰式・閉会式までご参加をいただきました。上の記念写真の中央に秋山先生と並んでおられます。

優秀賞校 5 校の研究発表に際し、石川学長・秋山審査委員長からは、素晴らしい発表でしたとお褒めの言葉がありました。やはり対面で行なう発表は臨場感に溢れ、高校生の皆さんの息づかいが伝わってきます。これまでのオンライン方式の発表と違い、何か新鮮さが伝わって参りました。

この「坊っちゃん科学賞」は、理窓教育会の先生方のご支援・ご協力により実践ができております。今回も 48 名の先生方によって分野別審査会が実施されました。また、様々な諸準備、当日の運営に於いてもご尽力をいただきました。心からお礼を申し上げます。それでは経緯と結果などについてご報告をさせていただきます。

(1) 参加校数・応募論文数

・参加校：全国の 88 校  
(発信案内状約 2000 校)

・応募論文数：221 点

(2) 審査の経緯（論文提出期限：令和 5 年 8 月 31 日）

・分野別審査会（理窓教育会の先生方 48 名による審査を 9 月 9 日（土）に実施。各分野の賞を決める。その中から優良入賞約 5～7 点を選出する）。選出した優良入賞論文を大学の総合審査委員に送り、見ていただく。

・総合審査会（令和 5 年 9 月 20・21 日）の二日間。理科大の教授 11 名に、送った論文の審査をしていただき各分野から優秀賞校一校を決定しました。

・9 月 30 日（土）全国の応募校に結果報告を行う。

・結果（優秀賞 5 校）は以下の通り。

① おむつ灰からのセキス炭酸ナトリウム合成

愛媛県立西条高等学校

② ヒキガエルの色彩パターンを用いた生



## 態研究

東京都立科学技術高等学校

- ③ フィボナッチ数を係数とする多項式の  
零点について

開智未来高等学校

- ④ 慣性モーメントが変化するフライホー  
ルを用いた風力発電

愛媛県立松山東高等学校

- ⑤ ミツバチの飼育に有用な微生物を添加  
した機能性代用花粉の開発

大阪府立園芸高等学校

## (3) 発表会当日

- ・ 令和 5 年 11 月 12 日) 午後 1 時～

発表会会場：理科大学神楽坂キャンパス  
2 号館 211 教室

- ・ 審査委員：審査委員長秋山仁先生、理科  
大の先生方 12 名による審査の実施。
- ・ 事務局：20 名（教育会の先生方）

## (4) 最優秀賞校の選出（発表会の結果）

- ◆ 開智未来高等学校が選出されました。

## 【今回の発表会の特色】

- ① 今回、優秀賞校 5 校以外の応募校は参  
観を取りやめさせていただいた関係  
で、当日、Zoom ウェビナーを活用しラ  
イブ配信を実施しました。事務局とし  
ては事前に 2 回のリハーサルを行ない  
成功裏に終了できました。
- ② さらに、動画編集を行ない昨年 12 月中  
旬から理窓会本部ホームページに掲載  
し公開致しました。皆様にもご覧いた  
だけますと幸甚です。

## 【結びに】

全国の先生方・高校生の皆様、そして関係  
各位の皆様のご協力に敬意と感謝を申し上げ  
ます。なお、第 15 回「坊っちゃん科学賞」  
の実施は、全てコロナ禍前に戻す予定です。  
近くにお知り合いの現役の先生方がおられま  
したらお伝えいただけると幸甚です。

## ＜若手教員ネットワークの会＞

理科大発「小学校教員養成プログラ  
ム」出身の卒業生の活躍

理窓教育会理事 松原 秀成

今回は「若手教員ネットワークの会」から  
2 名の先生の実践報告をいただきました。こ  
の「小学校教員養成プログラム（以下、小プ  
ロと表記）」は、2012 年元学長「藤嶋昭先  
生」の提唱により立ち上げられました。2012  
年（平成 24 年）9 月 4 日、玉川大学におい  
て、玉川大学小原学長他関係者と理科大学藤  
嶋学長他関係者により会議が行なわれまし  
た。そして、玉川大学を連携先とし、本プロ  
グラムに関する協定を結び「小プロ」が開  
設されました。理科大生の身分は、玉川大学通  
信教育部の科目履修生となり、各年度最大 5  
名の枠で募集されました。

第一回生の誕生は、2015 年（平成 27 年）  
でした。受講生は理科大の専門学科の単位と  
中学・高校の教員免許取得に関わる教職科目  
の単位を取得しなければならないので、非常  
に厳しいスケジュールの中で勉学に向き合う  
こととなります。小プロが開設されて次年度  
で 10 年目を迎えることとなります。本会報  
に実践報告をいただく若手教員のメンバーで  
ある原島果奈先生・田中明紗先生は、小学校  
教員として理数教育の専門性を小学校教育に  
積極的に実践される教員へと指導力を高めら  
れておられますことに敬意を表します。（こ  
のお二人以外でも私立小学校教員になり理科  
教育の実践を行なっている若手教員も生まれ  
ています）理窓教育会の新風でありこれから  
理科大から小学校へ船出する先導的なお二人  
になります。

「小学校教員として心掛けているこ  
と」愛知県岡崎市立矢作南小学校教諭  
(平 29 理・物) 原島 果奈

私は小学校教員としての経験を積み、今で  
こそ子供たちとの関わりを楽しんでいます

が、これまでの 7 年間は様々な試練に直面しました。初任校は東京の小規模な学校でしたが、現在は愛知の全校児童 700 人ほどの学校に勤務しています。規模も文化も異なり戸惑うことは多くありますが、素直で明るい子供たちと日々、楽しく過ごしています。



物理学科を卒業した理科大出身者が、なぜ小学校の教員になったのか疑問に思う方もいるでしょう。それは、大学時代に所属していたサークル chibi lab. で小学生たちと科学の実験を通じて楽しい時間を過ごし、その活動から得た感動が教育の道へと続くきっかけとなりました。子供たちが科学を楽しむ姿に触れ、小学校の理科教育に携わりたいとの思いが芽生え、理科大の小学校プログラムに参加して、免許を取得しました。

実際に小学校の教員になると、現実は厳しかったです。授業どころか、座ってられない子、話を聞けない子、字を書けない子、トラブルが絶えない状況に直面しました。大学で学んだ発達障害に関する知識も、実践ではなかなか通用せず、子供たちとの接し方に苦戦する日々が続きました。しかし、先輩から得た言葉が私を支えました。「若いうちはとにかく教育方法を学ぶことが大事」という助言に導かれ、先輩や本から学びながら、子供たちと向き合う方法を模索しました。初めは理論を理解することなく、先輩や本に書かれた方法を真似していました。例えば、廊下を走る児童に「廊下は走るな。」ではなく、「廊下は歩こうね。」と、肯定的な声かけに少し言い換えるだけで、子供たちの反応が変わります。言葉がけひとつ変えることで、子供のできるが増えます。子供が成長する姿を見ることが、とても嬉しいです。

今後は、教育方法の裏に隠れた理論をより深く学び、自らの力にしていきたいと考えています。これからも子供たちとの関わりを大切に、小学校教員になる前からの目標である理科教育にも一層力を入れ、子供たちが未

来に向けて輝けるようサポートしていきます。

**「小学校の先生、大募集！！」**  
**東京都江戸川区立鎌田小学校教諭**  
**(平 29 理・数) 田中 明紗**

私が大学 1 年のとき、藤嶋学長が提唱された玉川大学と連携して在学中に小学校教員免許を取得するプロジェクト「玉プロ」が始まりました。学内の掲示板でそれを知った私は迷わず参加し、小学校の先生になるという夢を叶えることができました。



小学校教員のよいところは、様々な教科を通して児童と関わることです。座学が得意な子、体育や音楽などの実技で生き生きする子、音楽会や学芸会で活躍する子もいます。また、6 年間の子供の心身の成長を間近で見られることも醍醐味の一つです。入学式で椅子にちょこんと座り、足をぶらんぶらんと揺らしながらきょろきょろしていた子供たちが、6 年経って、背筋を伸ばし堂々と卒業式に出席する姿を見ると、感慨深いものがあります。

子供たちと向き合う際に日頃から気を付けていることは、「待つこと」です。授業が児童主体かそうでないかによって、意欲が大きく変わります。そしてそれが成績にも表れます。そのため、4 月の学級開きから、児童が自分たちで考え伝え合う習慣が身に付くまで根気強く待つことを意識しています。生活指導においても、些細な言い合いや小競り合いは日常茶飯事ですが、児童が落ち着いて正直に話してくれるまで児童の言葉を待つようにしています。解決まで日をまたぐことがあっても、納得しないまま飲み込んでしまえば、次に同じことが起きたときも、児童は口を閉ざしたままになってしまいます。また、そのような指導は保護者対応を複雑にしてしまうこともあるため、どの学年を担当していて

も、「待つこと」を大切にしています。

東京都では、特に小学校の教員不足が年々深刻になっています。同時に、業務の軽減など働き方改革も進められているところです。これを読んでくださっている方の多くが、中学高校の教員でいらっしゃると思いますが、少しでも興味をもっていただけたら幸いです。小学校も最高に楽しいですよ。

## ＜新教育課程の課題＞

**『教育の不易流行を考える ～探究学習とデジタル・ポートフォリオ～』**  
**神奈川県立希望ヶ丘高等学校校長**  
**(62 理・物) 柴田 功**

現行の高等学校学習指導要領が告示されたのは平成 30 年、わずか 6 年前のことだが、元号が変わったこともあり、ずいぶん昔の印象がある。その 6 年間に、学校はコロナ禍によるオンライン授業を経験し、一人一台端末の活用を標準化した GIGA スクール構想も当初の計画を前倒しして始まった。こうした中、高校の場合は令和 4 年度から学年進行で新学習指導要領がスタートし、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、3 観点で評価する授業を行っている。さらには、令和 7 年 1 月に実施する共通テストには「情報 I」が加わり、生成 AI を活用した授業も行っている。これだけの変化が学校に押し寄せてくることは、これまでなかったのではないか。

こんな時代だからこそ「不易流行」という言葉を大切にしていきたい。これまで学校教育が大切にしてきた「不易」なものの中から次世代に継承すべき本質を見抜き、ICT や AI の活用など、これからの時代に必要な「流行」をうまく取り込んでいく。そして、それらを融合させて創り出した新たな教育をこれからの時代の「不易」としていくことが重要である。

既に GIGA スクール構想は、これからの時代の「不易」になりつつあるが、その「GIGA」という文字には「Global and

Innovation Gateway for All (すべての児童・生徒にグローバルで革新的な扉を)」という意味が込められている。つまり、各学校が校内で探究学習発表会をやっておしまいという小さな規模の学習活動ではなく、生徒一人一人が、自分の興味・関心に基づいて、自ら発見した問題に取り組み、その探究的な学びを、全世界に発信し、交流していくことをめざすことを意味している。

そこで、私からはデジタル・ポートフォリオ作りを核にした学習活動の充実を提案したい。毎日の学習の進捗状況を動画や静止画、レポート、グラフなどのデジタル情報をクラウドに蓄積し、それを Web 形式で單元ごとにまとめていく。例えば国語なら作文、理科なら実験レポート、英語ならスピーチ、体育ならダンスパフォーマンス、美術なら立体造形といったパフォーマンス課題をそれぞれラフスケッチやメモ、設計図といった構想段階から完成段階まで記録、蓄積し、Web ページにまとめるといった取組である。そうした各教科の取組の積み重ねが「総合的な探究の時間」の課題発見につながっていくことを期待している。イメージとしては、プランターに花の種を植えて、どの花が成長するかわからないけど、どこかのタイミングで一つの花が他の花より大きく成長していることを自ら発見し、探究学習でさらに成長させていくといったことである。こうした活動は生涯にわたって学び続けるためのプラットフォームにもなることが期待できる。

このように、世界に発信した探究活動は、社会貢献につながることを期待でき、自分の幸せと社会の幸せが一体となった、まさに Well-being という状態になると言える。こうした想いを後輩の皆さんに繋げていきたい。

**新教育課程で教師に求められていること**  
**昭島市立昭和中学校長**  
**(58 理・数) 長野 基**

平成 29 年 7 月に告示された現在の学習指

導要領は、中学校では令和 3 年度に全面実施され 3 年がたった。この学習指導要領を基に各学校では教育課程を編成し、生徒の生きる力を育てている。

そのためにはどのような資質・能力を身に付けさせるか、その 3 つの柱が学習指導要領に明記されている。それは (1) 知識及び技能 (2) 思考力、判断力、表現力 (3) 学びに向かう力、人間性である。現在、学校現場ではこの 3 つの観点について評価をしているが、学びに向かう力に関して「主体的に学習に取り組む態度」をどう見取るかが、特に課題となっている。生徒が粘り強く取り組もうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面の両方を評価する。具体的には、課題を粘り強く自力解決しようとしたり、授業の見通しや振り返りの段階で自己調整しようとしたりする姿を評価する。

従来の日本型学校教育における授業では一斉指導が主流だった。その後、個に応じた指導が取り入れられたが、ここまでは教師主導で、評価はほとんどがテスト等の点数によるものであった。今、授業で求められていることは生徒主体の個別最適な学びである。生徒が課題に対して目標を立て、どのようにアプローチすればよいかを考え、自力解決に向かう。その際見通しを立て、段階ごとに振り返りを行い、その都度自己調整をする。この流れの中で教師は、生徒が考えやすくなるように、又は生徒が取り組みやすくなるように気付きを促す。

つまり学校では、今までのように様々な知識を教える (teach) のではなく、生徒自らの学びを促進する (facilitate) ことが教師の役割となる。令和の日本型学校教育で、全ての子供たちの可能性を引き出すための多様な学びを実現するために、教師は Teacher から Facilitator になることが求められる。

そこで重要なことは、生徒の多様な学びに対応するために、教師自身が豊かな体験や実践を積み、多様性に富む魅力ある人間でいることである。

## 同窓の活躍

### 「母校創立百周年を迎えて ～校長としての主な取組～」

埼玉県立松山高等学校長

(63 理工・数) 小久保 守

先日、東京理科大学同窓教員ネットワーク「TUSLinkage」vol. 6 を拝見しました。東京理科大学 News『理科大 3 つの 1 位』の中で、高等学校の進路指導教諭”おススメの大学”に関するアンケート調査において、教育力が高い大学ランキング私大 1 位、研究力が高い大学ランキング私大第 1 位、大学別実就職率ランキング全国 1 位という報告を見て大変うれしく感じました。改めて、東京理科大学の指導力、教育力の高さを感じることができました。東京理科大学学長様をはじめ、幹部の皆様が先頭に立って大学経営に取り組まれていると共に、教職員の皆様はその意を体して学生たちを指導してくださっているおかげではないかと思えます。皆様に敬意と感謝を申し上げます。

さて、私の勤務校である埼玉県立松山高等学校は、『文武不岐』を建学の精神として、大正 12 年に旧制中学として誕生し、令和 5 年に創立 100 年を迎え、記念事業を行うために数年前から実行委員会を組織し、準備を進めてまいりました。この実行委員会は式典部会、祝賀会部会、記念誌部会、記念館部会、奨学基金部会、記念行事部会、会計部会、自習棟整備部会の八つの専門部会と募金委員会を中心に組織され、各部会委員は同窓会、P T A・後援会、学校職員で構成されています。

記念事業の主な概要として、式典部会では、創立百周年記念式典を東松山市民文化センターと本校の体育館の 2 会場をオンラインで結ぶという方法で行いました。式典当日のスケジュールとしては、式典第 1 部で、埼玉県知事様、県教育長様からお言葉をいただいたほか、県議会議員様、東松山市長様、校長協会、歴代校長代表から御祝辞をいただきま

した。式典第2部で、記念講演会として、本校のOBで大阪大学教授猪俣敦夫氏から「夢を追い続けるための原動力～私を助けてくれた素因数分解の力～」を演題として記念講演会を行いました。式典第3部で、吹奏楽部による百周年記念楽曲の演奏や応援団と吹奏楽部によるコラボレーション（演技披露）により、会場を盛り上げました。更に、記念品としてタンブラーの作成・配付や記念誌を発行しました。祝賀会部会では、御来賓、招待者、同窓会、PTA・後援会を中心に記念祝賀会を開催しました。記念館部会では、松高記念館の庭園整備、百周年記念碑の設置を行いました。この本校のシンボルの一つである松高記念館は創立当時の姿をそのまま残し、これまで3万1千人を超える松高生たちを見守り、令和2年に国登録有形文化財となりました。新1万円札の顔となる渋沢栄一氏が松高生のために書いてくださった書などを一般公開しておりますので、お近くにいられた時にはぜひ御覧いただきたいと思っております。

次に、奨学金部会では、「百周年記念事業奨学基金」（松高奨学金）を設置し、留学支援制度、受験応援制度、進学奨学制度をつくり、難関国公立大学・私立大学受験、進学者への給付型の進学支援を令和5年度の在校生からスタートさせました。記念行事部会では、「松高100年の歩みパネル展」を市内中学校や丸広百貨店の協力により、巡回展示を行いました。自習室整備部会では、自習室内の改修やエアコン設置、椅子や机、ブラインド等の整備により快適な環境での生徒の主体的な学びを支援しています。その他、記念事業のPR活動として、各所へのポスター配布・掲示、商店街へのフラッグ、のぼり旗の設置を行いました。今後、松山高校創立百周年記念事業の趣旨に御賛同いただき、寄付をしていただいた方へお礼状と記念品、寄付者芳名簿の送付、また、高額寄付者芳名板を作成し、松高記念館へ設置します。

このように、創立百周年記念事業実施に母校の校長として、取り組めることは、大きな喜びであります。この場をおかりして関係の

皆様に心から感謝を申し上げます。

結びに、東京理科大学、理窓教育会のますますの御発展と関係の皆様方の御健勝をお祈り申し上げます。理窓教育会の皆様には、日ごろから母校の充実・発展のため御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

## 大学との連携

(57理・数) 松本 明

2024年3月2日（土）に「プレ教員講座」を開催しました。この講座は、4月から教職に就く学生を対象に、その心構えを再確認するとともに決意を新たにし、同期教員との横の連携を図ることを目的に実施しております。当日は、石川正俊学長、眞田克典教職教育センター長のご臨席のもと、25名の学生が参加して開催されました。

学長の「激励のことば」では、理想の教師像を持ってほしい、様々な想いを持った生徒たち一人一人を大切にされた教育者になってほしい、というお話をいただきました。「現代は、一律に教育することが難しくなっている。生徒一人一人が何を求めているのかを見極める必要がある。つまり、本質を見抜く必要がある。また、変化の激しい時代を迎えているので、先の見通しがつきにくく、どういう教育をするのがよいのかも判断が難しい。そのような中で、生徒が持っている芽を見つけ育てることができるような教員になってほしい、強いパッションを持って！！」という力強い「最終講義」をいただきました。

また、眞田センター長からは、本学の卒業生教員の高い専門性が評価されているが、それに加えて、授業実践力、生徒指導力、職務遂行能力が評価されていることも述べられ、教職に就く学生に対してお祝いのことばをいただきました。

今年度の卒業生は、新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン授業が大学生活のスタートでした。慣れない環境、不安な環境の中でのスタートだったと思いますが、そ

の分、ICTの活用能力が急速に進んだこと  
と思います。そういった力も武器にして各勤  
務校でご活躍されることを期待しています。

その他、関連して2点ご報告いたします。

近年、教員希望者の減少が危惧されていま  
すが、本学の教職課程履修者も緩やかではあ  
りますがその傾向にあります。SNSなども  
活用し、教職の魅力を発信し履修者を増やす  
取り組みを行なっております。特に今年度  
は、就職課との連携を強化させ、学生への情  
報提供の充実を図っております。具体的  
には、就職課でも教職教育センターでも同様の  
情報を提供できるように努めたこと、教員採  
用試験の変更等を踏まえたガイダンスの回数  
を増やしたことが挙げられます。

もう一点は、校友・父母支援課の主導のも  
と「同窓高等学校長懇談会」を再開しまし  
た。6年ぶりの開催となり、全国から30名  
を超える校長先生方にご参加いただきました。  
大学の現状を理解していただくとともに、  
小グループに分かれ協議・意見交換をして  
いただきました。大学への要望など貴重な  
ご意見を多数いただくことができました。来  
年度も引き続き開催する予定です。

教職課程指導室では、教員採用試験対策講  
座や春期集中講座を実施してきました。時代  
の変化に応じた実践的な指導力を発揮できる  
教員を輩出できるよう、これからも指導を重  
ねてまいります。理窓教育会の皆様には、今  
後とも様々なご支援・ご協力をお願いいたし  
ます。

## 事務局より

### 1 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は PORTA 神楽坂 6 階の  
理窓会事務室内に置かれています。

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員が  
いるわけではありませんので、ご連絡は郵送  
でお願いいたします。お急ぎの場合には、2  
の支部長等の連絡窓口にご連絡ください。

### 書面での連絡先

〒162-0825 新宿区神楽坂 2-6-1  
PORTA 神楽坂 6F 理窓会事務所内  
東京理科大学理窓教育会 宛

### 2 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 白田三知永 (会計担当)

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール <[usuda.m@rs.tus.ac.jp](mailto:usuda.m@rs.tus.ac.jp)>

### 3 理窓教育会ホームページ

「理窓教育会」と入力すると、開きます。

「東京理科大学理窓会」のホームページの中  
に「理窓教育会」のものがありません。

ホームページアドレスは次の通りです。

<http://risoukai.com/educ/>

### 4 会費の納入について

理窓教育会は、会員の皆様の会費  
(年額千五百円)で運営されています。  
会費の納入は郵便振替をご利用ください。

(口座番号) 00160-9-715349

(加入者名) 東京理科大学理窓教育会

### 会計担当からのお願い

今年度の会費の納入状況についてご報  
告させていただきます。

令和5年度は3月14日現在200名の会  
員の皆様から213口の会費納入がございま  
した。昨年度の146名から大幅な会員増と  
なりました。皆様のご協力の賜物です。  
ありがとうございました。

引き続きよろしくお願ひいたします。

(会計担当理事 白田 三知永)



**事務局からのお願い**

今年度から経費節減のためクロネコゆうメールで発送することになりました。これは信書ではありませんので、封筒に切り込みを入れて冊子のみを入れます。そのためヤマトビジネスメンバーズに登録して送り状発行システムで私たちが送り状（タックシール）を印刷貼付いたします。

会費の納入状況をお知らせできませんので、念のため全員に振込用紙を貼付いたします。

何かお問い合わせがありましたらメールでご連絡ください。

事務局担当理事 小久保 正己  
 <mkokubo@alumni.tus.ac.jp>

振込用紙

貼付位置

（編集後記）理窓教育会報第 63 号をお届けいたします。

お忙しい中、支部総会報告等でご協力いただいた支部長さん、原稿や記事をお寄せいただいた皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました。

本号は支部総会等の報告の特集です。原稿集約の時期がちょうど入試等の時期と重なったために、お忙しかったことと思います。

令和 5 年度も年度を通してコロナ禍で振

り回されて、子どもたちや保護者そして先生方には本当に大変だったことと思います。一日も早く終息して、笑顔が戻ることをご祈念申し上げます。

さて、『坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト（第 14 回）』は、オンライン・ライブ配信で実施しましたが、松原秀成実行委員長から、その様子を詳しく報告していただきました。

また「若手教員ネットワークの会」についても担当の松原さんからご報告いただきました。コロナ禍で普及した Zoom を活用して情報交換しています。

今回の若手教員は、小学校教員養成プログラムを終えられて実際に小学校教員をされている原島果奈さんと田中明紗さんのお二人です。原島さんは「現実には厳しかった。授業どころか、座ってられない子、話を聞けない子、字を書けない子、トラブルが絶えない状況に直面しました」と書いています。そうした状況の中で、田中さんは「生活指導においても、些細な言い合いや小競り合いは日常茶飯事ですが、児童が落ち着いて正直に話してくれるまで児童の言葉を待つようにしています」と書いています。大変な努力をされていることが分かります。

さらに「新教育課程の課題」として、神奈川県立希望ヶ丘高等学校校長の柴田功さんと昭島市立昭和中学校長の長野基さんに書いていただきました。

また「同窓の活躍」を埼玉県立松山高校長の小久保守さんに依頼しました。

令和 5 年度は、Zoom を使って、ぜひ全国の支部長さんたちの会議をしたいと考えていましたが残念ながらその機会がありませんでした。令和 6 年度にぜひやりたいと考えます。

**富山支部長の近藤智久さんからのメッセージをお伝えします。**

1 月に発生した能登半島地震によりこちら富山県においてもかなりの被害が生じております。無事を心配して、理大同窓生からも多くの励ましをいただきました。本当にありがたく思っております。復旧・復興にがんばっていきたく思っております。

それでは「この年代を超えた同窓の力で」頑張っていきましょう。

（編集担当理事 小久保 正己）

2023年度実施(2024年度採用) 教員採用試験合格者数

2024年3月18日現在

校種 教科	公 立									私 立					公私 合計
	小学校	中学校・高等学校				特別支援		校種教科 不明	合計	中学校・高等学校				合計	
		数学	理科	情報	不明	数学	理科			数学	理科	情報	不明		
仙台市		1							1					0	1
福島			1						1					0	1
群馬		1							1					0	1
栃木		1							1					0	1
茨城		1	2						3		1			1	4
埼玉	1	4			10				15	2				2	17
さいたま市		1	1						2					0	2
千葉	1	12	5						18	2	1			3	21
東京都	2	25	11						38	7	2			9	47
神奈川	1	7	3	1					12	2				2	14
横浜市		3							3					0	3
川崎市		1	1						2					0	2
長野		1							1					0	1
静岡		2							2					0	2
愛知		1							1					0	1
愛媛		1							1					0	1
長崎									0	1				1	1
福岡									0		1			1	1
合計	5	62	24	1	10	0	0	0	102	14	5	0	0	19	121

校種 教科	公 立									私 立					公私 合計
	小学校	中学校・高等学校				特支			合計	中学校・高等学校				合計	
		数学	理科	情報	不明	数学	理科	不明		数学	理科	情報	不明		
2023年度	5	62	24	1	10	0	0	0	102	14	5	0	0	19	121
2022年度	6	56	21	1	7	0	0	0	91	19	6	0	0	25	116
2021年度	3	68	35		10	1	2		119	16	9			25	144
2020年度	7	73	35		11				126	9	4			13	139
2019年度	9	74	37	2	12				134	13	13			26	160
2018年度	7	75	29	2	9	1	1	1	125	8	7			15	140
2017年度	4	81	26	3	6	2	1		123	15	18			33	156
2016年度	9	77	37	1					124	16	14			30	154

表中の数字は、教諭および常勤講師の数（非常勤講師は除く）